

令和2年度学校自己評価システムシート (県立小鹿野高等学校)

N08

| | |
|--------|---|
| 目指す学校像 | 総合学科高校として、生徒の「学力・人間力・思いやり・創造性」をはぐくむ、地域に愛され、期待に応える学校 |
|--------|---|

| | |
|------|---|
| 重点目標 | 1 基礎から発展まで確かな学力の育成 2 総合学科の特色を生かしたキャリア教育の充実と進路実現 3 規範意識の醸成と規律ある生活習慣の確立 4 生徒の人間力を高めるための地域連携と開かれた学校づくりの推進 |
|------|---|

| | | |
|-----|---|-------------|
| 達成度 | A | ほぼ達成(8割以上) |
| | B | 概ね達成(6割以上) |
| | C | 変化の兆し(4割以上) |
| | D | 不十分(4割未満) |

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

| | | |
|-----|----------|-----|
| 出席者 | 学校関係者 | 9名 |
| | 生徒 | 3名 |
| | 事務局(教職員) | 11名 |

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

| 学 校 自 己 評 価 | | | | | | 学校関係者評価 | | |
|-------------|---|---|---|--|---|---------|--|--|
| 年 度 目 標 | | | 年 度 評 価 (1 月 2 7 日 現 在) | | | 実 施 日 | | |
| 番号 | 現状と課題 | 評価項目 | 具体的方策 | 方策の評価指標 | 評価項目の達成状況 | 達成度 | 次年度への課題と改善策 | |
| 1 | <p>【現状】 授業規律は維持できているが、授業以外の学習時間が短い生徒がいる。生徒間の学力差に対応する授業展開が求められている。</p> <p>【課題】 ・授業以外での学習時間の増加 ・学力向上につながる授業改善の促進</p> | 学習習慣を定着させ、一人一人の学力を伸ばす | ①学習意欲の向上に向け各種検定や小テスト等を活用(教科) ②生徒の主体性を引き出す授業改善研修会の実施 ③スタディアプリ、小論文指導、マデールレス等による補充指導(進指部・教科等) ④少人数指導や習熟度指導等(教科) | ①英検漢検等の受検者増 ②講師を招聘した研修会を1回以上実施 ③スタディアプリ受講者の利用回数増、生徒満足度増 ④「授業が分かりやすい」の生徒回答増(昨年度85%) | <p>学習習慣の定着等について著しい改善は見られなかった。「学力を伸ばす取組が行われた」保護者回答 96% (前年度比 0.7ポイント減) 「自宅での学習時間0分」生徒回答前年度比 8.7ポイント減</p> ①未来塾も生かし英検は年3回受検機会を設定し12名が受け上位取得。漢検はML漢字テストの指導の他、直前3日間補習等を実施し19名受検。ビジネスマン実務検定1級取得 ②近隣小中学校にも案内しほめ達協会講師を招聘した職員研修会を実施。高校魅力化事例や探究等に関する研修会を実施予定 ③進指部が定期的に活用状況を把握指導、スタディアプリ受講者の利用回数週1回以上89%生徒満足度89%。国語科小論文等の指導、ML10回実施 ④12~19名の必修授業、2名以上による選択授業を展開し目が行き届く指導を行う。「授業が分かりやすい」生徒回答84%(昨年度85%) | B | <p>【課題】 ・学習意欲を高め授業以外の学習時間を増やす</p> <p>【改善策】 ・授業改善研修会の実施 ・課題や小テスト、検定等の検討 ・学習のつまづきを解消する方策</p> | 学校関係者からの意見・要望・評価等 |
| 2 | <p>【現状】 生徒の進路希望は多様であり、個に応じた指導が求められている。</p> <p>【課題】 ・自らのキャリアについて興味関心を持ち、適性を知り、その能力を伸長する。 ・進路指導における保護者との連携強化</p> | 総合学科を生かした教育課程により自己実現への意欲を高める | ①産社委員会を中心とした「産業社会と人間」の効果的な実施 ②保護者も参画する進路ガイダンスの実施(進指部等) ③進路を見据え、系列を意識した約80の選択科目の選択指導(教務部・学年等) ④学年や進路指導部を中心とした保護者への進路情報の提供や面談の実施 | ①「進路を考える上で役に立っている」の生徒回答増(昨年度90%) ②「進路指導に満足」の保護者回答8割 ③「選択科目に満足している」の生徒回答7割 ④「必要な情報提供が行われている」の保護者回答8割 | <p>概ね自らの進路の意識を高めることができた「進路選択の意欲を高めた」生徒回答 77% (前年度比 2ポイント減)</p> ①教育会社等と連携した講座や職業体験(12/11, 14, 15)等を実施。進路意識の醸成のため参加型体験学習を行う。「産社は進路を考える上で役に立った」生徒回答82% ②感染拡大防止のため進路ガイダンス中止。「進路指導に満足」保護者回答96%(前年度比1ポイント減) ③個人面談等により進路希望等を踏まえて個別指導。「選択科目に満足している」生徒回答75% ④進路ガイダンスの代替で3者面談期間に希望型進路個人面談を実施。JST進路だよりの定期的な発行。「必要な情報提供・進路相談が行われている」保護者回答94%(前年度比5ポイント減) | B | <p>【課題】 ・総合学科の特徴を生かした更なる進路意識の向上</p> <p>【改善策】 ・教育課程の充実 ・進路ガイダンス等による保護者との連携強化</p> | ・卒業生のうち進路未決定者がゼロだったことは、ぜひ中学校や保護者にアピールしてほしい。高校生活の出口について保護者は特に関心があり、高校選択において重要な事項である。 ・小鹿野町役場へ就職できる小鹿野高校卒のようなものがないか検討してほしい。 |
| 3 | <p>【現状】 小規模校のメリットを生かし、教職員は生徒の特性や状況に応じて指導をしている。遅刻者数は昨年度大幅に改善。</p> <p>【課題】 ・課題のある生徒に更に寄り添う教育相談体制の構築 ・山村留学の生活指導の充実</p> | 主体的に規律を守る態度・意識を育成する | ①教育相談委員会を中心に、SC・相談支援員・巡回支援員との連携による教育相談体制を強化 ②学年及び生徒指導部等による組織的な整容指導 ③自己管理能力の育成につながる手帳の活用(学年等) | ①「悩み等を相談しやすい」の生徒回答8割 ②組織的な整容指導の実施回数 ③手帳の活用率増(昨年度45%) | <p>規律を守る態度意識を高めることができた「時間を守ることができる」生徒回答 79% (前年度比 8ポイント増) 「頭髪服装指導はきめ細かく行われている」生徒回答 86% (前年度比 5ポイント減)</p> ①SC17回訪問し生徒のべ115名保護者のべ7名教員のべ56名と面談。相談支援員6回訪問し生徒のべ11名保護者2名教員のべ11名と面談。巡回支援員7回訪問。「悩み等を相談しやすい」前年度比3ポイント減 ②学年生徒指導係を中心に整容指導を5回(1回3日間)実施 ③各学年で1日振り返りや翌日準備等の記入、2行日記等で活用指導。手帳の活用率前年度比6ポイント減 | A | <p>【課題】 ・相談しやすい環境づくり</p> <p>【改善策】 ・教育相談委員会や学年等における情報共有 ・教育相談研修会の実施</p> | ・一昔前、小鹿野高校のイメージは良いものばかりではなかったが、現在は全く異なっている状況である。小鹿野未来塾の保護者アンケートにおいても「学校が綺麗、落ち着いた」等の好印象の記述がある。様々な取組が行われている |
| 4 | <p>【現状】 昨年度コミュニティスクールとなり、地域との協働による教育活動を促進できる体制が整えられた。</p> <p>【課題】 ・山村留学9年目であるが認知度が低い。 ・学校と地域がWIN-WINとなるよう相互の課題や目標等を十分に共有する。</p> | 地域連携を通して生徒の自己有用感等の醸成につなげるとともに、山村留学を始めとした本校の取組を広く発信する。 | ①学校地域WIN-WINプロジェクトを活用(総務部・教科等) ②新規リーフレットや学校だより、メディア、地域コホ Facebook等を活用(山留委・教務部等) ③地域と連携した総探の実施(総探委・学年等) | ①「地域との協働活動が成長につながっている」の生徒回答8割 ②配布件数、取材件数、更新件数 ③生徒満足度8割 | <p>各部署で地域と連携した様々な取組が行われた。学校HP132回以上更新</p> ①竹あかりプロジェクトや各教科目等で協働した教育活動を実施「成長につながった」生徒回答75% ②山村留学リーフレットを作成し県内全市町村教委や対象中学校等へ配付。わらじか新聞2回、小鹿野高校だより8回発行し地域回覧板約500部配布。新聞会社や町報等による総探(総学)や東洋大学連携事業等の51回以上掲載。地域コホ Facebookは町担当課と共に随時更新266フォロ ③総探で10社の協力を得て町の職業人による進路講話2回実施。総学で「株式会社小鹿野高校」をテーマに探究活動を実施しキャリア教育実践アワード最優秀賞。「進路を考えるきっかけになった」生徒回答76%、「町での探究活動は成長につながった」生徒回答75% | B | <p>【課題】 ・学校と地域が同一の目標を共有</p> <p>【改善策】 ・綿密な打合せ等による共通認識及び情報共有の促進</p> | ・中学生を文化祭に招待した昨年度の取組は高校を知る上で意義があった。何か私自身が協力できるものはないかと思う。学校の良さが口コミで中学生に伝わればと思う。 ・私学を含め多くの中学生が秩父管外へ出ていくが、それらの生徒が留まる魅力が求められている。 |